

令和元年度 学校評価における自己点検・自己評価について

学校法人翔英学園 認定こども園みずほ幼稚園

1 教育理念

本園は教育基本法、学校教育法に基づき、幼児の望ましい経験を通して心身の発達を図り、豊かな人間形成の基礎を築くことを目的とする。

2 本園の教育目標

明るく、元気で心身共にたくましい、人間性豊かな子どもを育てる。

3 めざす子ども像

1. 明るく伸び伸びと行動し、心身共に健康でたくましい子
2. 園生活を楽しみ、身近な人に愛情や信頼感を持つ子
3. 身近な環境に親しみ、好奇心や探究心を持って関わり、よく考える子
4. 感じたことや考えたことを自分なりに表現し、豊かな心を持つ子

4 本園の特色

1. 自然の中へとび出す保育
2. 元気な体をつくる保育
3. 温かい手づくり保育
4. 友だちをいっぱいつくる保育

5 本年度の教育重点目標

○身近な環境に親しみ、好奇心や探究心を持って関わり、よく考える子

- ・身近な環境に自分から関わろうとする。(0歳)
- ・身近な環境に親しみ様々なものに興味を持つ。(1歳)
- ・身近な自然に触れ、興味を持つ。(2歳)
- ・身近な自然に触れ、興味関心を持つ。(年少組)
- ・身近な自然や生き物に触れ、美しさを感じ、いたわりの気持ちを持つ。(年中組)
- ・自然や身近な事象に興味関心を持ち、豊かな心を育み、知的好奇心を高めようとする。

(年長組)

6 園が重点的に取り組む目標

- ・こども園も2年目になり、0・1歳児の遊びを見直し環境設定を工夫し、園の中でできる遊びを研究する。
また、園全体の中で、どのような関わりが出来るのか、子どもの様子を見取りながら考えていく。
他の学年の生活との兼ね合いを考えながら、園の施設や環境を積極的に活用した保育を実践する。
- ・保育の質の向上に向けた課題に組織的に対応するため、保育内容の改善や役割分担の見直し等を取り組むと共に、それぞれの職務内容に応じて、知識及び技能を身に付けられるようにする。
- ・預かり保育について、職員の配置、保育内容等について考え、構築化していく。

7 評価項目の達成及び取組み状況

教育・保育内容の充実	評価	取組状況
園の教育理念・教育目標・方針に基づいて教育課程が編成され、評価を基に年間指導計画月週案を見直し、作成されているか。	B	毎年見直しをし、月案に反映している。前月の子どもの様子を考えながら主任の指導のもと見直しながら作成している。
認定こども園教育要領・保育要領の内容を理解し、0歳児から就学前までの子どもの発達状況に即した指導が行われ職員間の共通理解のもと教育・保育生活環境の工夫・見直しが行われているか。	B	本園で初めて1歳児保育を受けた子どもが2歳児に進級した保育実践を鳥取県私立幼稚園・認定こども園研修大会で発表した。研究を通して2歳児は、1歳児の延長として指導内容を工夫していく必要があると感じ、合わせて職員間の共通理解の下、保育・教育の重要性を改めて感じた。
特別支援教育を特別支援専門機関や家庭との連携を図り、個別の支援計画・指導計画を作成しているか。	B	支援計画を基に、個別の指導計画を作成・実践している。個々の様子を観察し記録に残しながら、より良い支援を行っている。個々の発達に添う柔軟な指導計画を作成し、保護者と一緒に専門機関へ行き、具体的な支援方法等、情報を共有する機会をもっている。
地域で支える幼児教育の推進		
散歩や園外保育を通し、地域の人と触れ合う機会を設ける。また地域の行事に積極的に参加し、地域の人との交流や文化等に興味を持つようにしているか。	B	学年毎に散歩を取り入れ、地域の自然や人々に触れ合う機会を設けている。また地域の方の協力により、田植え・稲刈り・みかん・リンゴの収穫等の豊かな経験をさせてもらっている。
子育て親育ち支援の充実		
保育参観・家庭訪問・個人懇談・HP等を通し、保育の内容や情報を提供し、保護者と話し合い、子どもの成長を共通理解しているか。	B	学期毎の保育参観や個人懇談会等を通して、子どもの成長について保護者と話し合い、共通理解ができるようにしている。クラス便りでもクラスの様子や保育内容等を知らせ、情報が共有できるようにしている。今年度、HPの活用が不十分であったと感じるので、本園の教育発信に有効活用していきたい。
幼稚園に対する保護者の意見や要望等は連絡ノートを活用し、聞き入れやすいようにしているか。	B	毎日の連絡のやりとりに連絡ノートを活用し、子どもの様子や園に対する要望等を聞き取りやすいようにする。保護者とのコミュニケーション作りに活用している。
未就園児親子参加教室を実施し、幼稚園の活動の疑似体験や、子育て講演会・相談等を行い、子育て支援の取組ができていくか。	B	「はらっばくらぶ」を通し、未就園の親子で幼稚園の疑似体験をしていただき、子育て支援を行っている。今後も親子で楽しめる内容を工夫していく。
預かり保育(早朝・延長保育)の運営体制を整え、カリキュラムを基に預かり保育の充実を図っているか。	B	早朝、延長預かり、長期休業預かり等を実施にあたり担当職員を配置し、いろいろな遊びを計画して子どもたちが安心安全に過ごせるよう配慮する。
小学校教育との連携		
地域の小学校の先生や校長先生との連絡会を通し、教育活動の進捗状況や子どもの姿について教職員が情報共有できる場を設け実践しているか。	A	就将小学校区幼保小園長校長連絡会において定期的に会を開き、情報交換を行っている。また幼小連絡会において一人一人の聞き取りや支援を要する子どもについて話し、就学がスムーズにできるようにする。
アプローチカリキュラムを作成し、幼保小連携を意識し就学に向け、スムーズに移行できるようにしているか。	A	年長1年間の保育の流れを就学に向けて視点を考え、活動を行った。小学校と連絡を取り合い計画を立てて、スムーズな接続が出来るよう配慮している。

幼稚園と小学校のお互いの行事を連絡し合い、交流の場が出来るようにしているか。	B	年長児が校区の小学校に訪問し、授業参観、給食参観、発表会参観を行い、交流の場を設け年長児がスムーズに就学できるようにしている。
保育者の資質向上		
教職員全員が園児の情報を共有し、共通理解を持ち適切に対応しているか。	B	園児について、一日に一回は会を設け、報告をし、情報を共有し、話し合い共通理解を図り、一人ひとりに対応するよう努めている。不在の職員にも連絡することを徹底している。
園外研修に参加する機会を確保し、職員の資質向上に取り組み、研修会参加後には報告会を開き、内容の共通理解をしているか。	B	職員研修は一年間通し行っているが、研修報告の場を設けることに課題がある。 全員揃い、職員のいろいろな観点からの意見を出し合い議論を深め職員の資質向上に繋げていきたい。
安全管理		
危機管理マニュアルを基に防災計画を適切に作成・実施しているか。	B	毎月の避難訓練を通し、色々な災害を想定し実施している。時には消防署の方に訓練の様子を監察して頂き、指導を受け見直していくようにしている。
職員が日頃から、安全教育に関心を持ち、安全管理の徹底を心がけ、安全対応能力の向上に繋がるようにしているか。	A	遊具の点検表を基に定期的に安全点検日を設け、職員が室内遊具、外遊具の点検を行っている。定期的に業者点検も実施。危険な所があれば園長に報告して、常に安全に遊べるよう見守っている。

8 総合的な自己評価(結果)

結 果	理 由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・認定こども園になり、2年目となった。養護の部分が増える中で、教育の質は落とさないように職員みんなで努力し、達成できていた。特に、2歳児の遊びの充実に関しては1歳児からのつながりについて研究を深めていった。この研究取組を通して0歳から5歳までの発達に即した保育・教育内容の充実を図っていきたいと考える。 ・一人ひとりを大切にし、手作りの保育を心がけて取り組めた。 ・預かり保育については利用者が増え、長時間の保育が求められているので、さらに保育内容等の見直しが必要である。
A ・ 十分達成している	
B ・ 達成されている	
C ・ 取り組まれているが 成果が十分でない D ・ 不十分である	

9 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み
預かり保育の取組	無償化に伴い預かり保育の増加、長時間保育がみられる。安全で健康な子どもの過ごし方は勿論の事、スキンシップも乳幼児の情緒の安定には大切であると考えます。
行事・カリキュラムの見直し	日常の保育を大切に、子ども主体の保育で充実した園生活を工夫する。
職員連携	シフト制の中で、園内研修や会議の時間を確保し有効的な会議の進め方を工夫し、取り組んでいきたい。